

ロボットとロボット様玩具の違いと それらの有効活用のために

健康福祉学部 作業療法学科 准教授 井上 薫

ロボットの実用化から生活を支援するロボットへの関心が高まった。作業療法における「作業」は人のあらゆる活動が対象となる。作業療法とは、作業活動への支援、作業活動を使用して支援するもの。ロボット技術の実用化に伴い一部のロボットも作業活動へ利用することができるようになった。施策として取り組まれている以上、作業療法領域においてもその有効な活用に向けて利点・問題点を整理していく必要がある。
今回は、ロボットやロボット様玩具の有効活用について発表する。

ロボットやロボット様玩具の有効活用

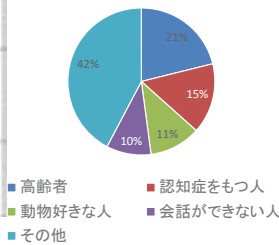
使用したロボット・ロボット様玩具

商品名	A	B	C	D+E	F	G
サイズ	570mm(身長)	400mm(高さ)	200×200×230mm	260×300×210mm	290mm(高さ)	290mm(高さ)
重量	約27kg (リッチリー パック搭載時)	約18kg (リッチリー パック搭載時)	約7kg	約7kg	約480g (乾電池なし)	約500g (乾電池なし)
形状	ロボット (動物型)	ロボット (ヒューマノイド型)	玩具(動物型)	玩具 (人型型2体)	玩具(人型型)	玩具(人型型)

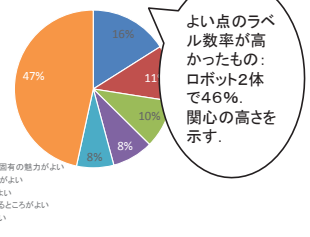
ロボットやロボット様玩具の有効活用

想定される対象者と ロボット・ロボット様玩具のよい点

想定される対象者対象者:ラベル数71



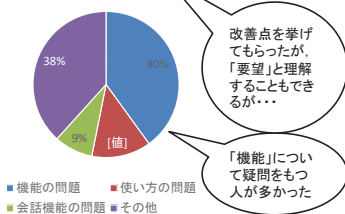
ロボット・ロボット用玩具のよい点:
ラベル数131



ロボットやロボット様玩具の有効活用

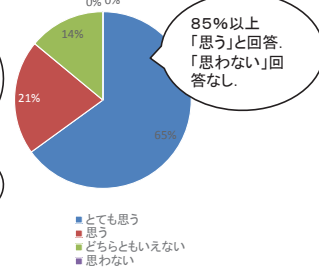
ロボット・ロボット様玩具の改善点と 事後アンケート

ロボット・ロボット様玩具の改善点:
ラベル数175



改善点を挙げてもらったが、「要望」と理解することもできるが...
「機能」について疑問をもつ人が多かった

業務に活用したいか? N=43名



85%以上「思う」と回答、「思わない」回答なし。

ロボットやロボット様玩具の有効活用

高齢者に対する良い効果・活用を妨げる問題

問題	件数
楽しみの効果	8
興味を引き出す効果	6
コミュニケーションのきっかけになる効果	4
笑顔を引き出す効果	3
よい効果への期待	3
合計	28

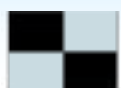
問題	件数
対象者の選定が難しい	3
価格や管理が難しい	2
ロボット・玩具等の機能が故に	2
ロボット・玩具等の機能や役割が違うため選定が難しい	1
長期間の使用は難しそう	1
ロボット・玩具等を使用する時間を作るのが難しい	1
合計	14

職員が考える効果活用する際の着眼点

職員に十分に活用してもらうには十分なオリエンテーションが必要

ここがポイント!

- ✓ 動物型の方が人型よりやや好評であった。
- ✓ 特に、介護ケアの実践に役立つものに対する期待が高かった。
- ✓ 今回の対象者は、高性能ロボットと玩具を意識して区別している人は少なかった(実際の機能は大きく異なる)。
- ✓ 職員は、ロボットやロボット様玩具の知識や使い方を熟知している必要があり、導入時にはロボットを熟知した人による支援が必要。
- ✓ 高額なロボットと玩具の違いは、今回の調査ではロボットに対し関心の高さを示したことで、それらがより人を惹きつける要素があった。



お問い合わせ先
首都大学東京 URA室

TEL : 042-677-2759 mail: soudanmi@jmj.tmu.ac.jp

